

梅丘図書館の改築整備方針（案）について

（付議の要旨） 梅丘図書館の改築整備方針（案）を取りまとめたので報告する。

1 主旨

梅丘図書館の改築については、第2次世田谷区立図書館ビジョン第1期行動計画の基本方針の一つである「図書館ネットワークの構築」に基づき、改築準備を進めてきた。平成27年度には住民参加によるワークショップを実施しながら、羽根木公園と一体で整備するゾーニング案などを示した梅丘図書館改築基本構想報告書を取りまとめた。また、同じく平成27年度には、「公共施設等総合管理計画の基本方針（骨太の方針）《建物編》」に基づく個別施設整備の検討について」において、整備時期を平成31年度竣工から平成33年度竣工に延伸する決定がなされた。

このような経緯を経て、このたび基本構想報告書をもとに基本設計に着手するにあたり、梅丘図書館改築整備方針（案）を取りまとめたので報告する。

2 整備方針の概要

梅丘図書館の改築については、第2次世田谷区立図書館ビジョンの第1期行動計画に位置づけており、基本理念である「知と学びと文化の情報拠点」を実現するために、地域特性や住民意見等を取り入れた整備が必要である。そのため今回の整備方針では、住民参加によるワークショップでの意見等をもとに取りまとめた基本構想報告書の基本方針等を踏まえ、羽根木公園との一体的整備のほか、地域の活動・交流拠点や居場所の整備などを図っていくこととする。また、梅丘地域がユニバーサルデザインを重点的に進める「保健福祉の街づくり重点ゾーン」に位置づけられていることから、ユニバーサルデザイン化などを推進するとともに、今後のICタグ導入による館内での自由な本の持ち運びを想定し、羽根木公園内という立地も生かしたカフェの併設などを検討していく。なお、運営手法については仮図書館事務所運営から改築後の業務運営について、多様な民間活力の導入を検討していく。

また、東京都から敷地北西側の崖の一部が土砂災害特別警戒区域に指定される予定であり、改築にあわせて擁壁等を整備していく必要がある。

（1）敷地概要

- ①所在地 世田谷区代田四丁目38番10号（別紙参照）
- ②敷地面積 約2,615㎡（羽根木公園全体 約79,650㎡）
- ③用途地域 第一種中高層住居専用地域

（2）建物概要

- ①延床面積 現在：約1,742㎡
整備後：約1,837㎡
- ②階数 地上3階建て（3階部分を羽根木公園とつなげ、公園と一体で整備）
- ③建ぺい率・容積率 60%・150%

<裏面あり>

④整備後の主な諸室 住民参加によるワークショップなどにおける提案意見を踏まえ、カフェや交流スペース等の諸室を取り入れた。(詳細は別紙参照)

1階：交流スペース、新聞・雑誌コーナー、カフェなど

2階：図書コーナー、ワークショップルーム、閲覧席など

3階：子どもコーナー、おはなし室など

【主な諸室の面積表（1～3階）】

1階面積		2階面積		3階面積	
室名	面積(m ²)	室名	面積(m ²)	室名	面積(m ²)
交流スペース	70	図書コーナー (地域資料コーナー、 閲覧席を含む)	606	子どもコーナー	267
新聞・雑誌コーナー	45			おはなし室	50
ボランティア活動室	28			授乳室	16
閉架書庫図書交換室	68	ワークショップルーム	50	※屋外のキッズテラスから羽根木公園へ抜けることができる。	
カフェ	91	事務室	42	共用部等	138
共用部等	244	共用部等	122		
計	546	計	820	計	471

⑤仮図書館事務所用地・規模 必要性を検証した上で、区民ニーズを見極め近隣の小・中学校をはじめ公共施設等の活用を検討する。(約100m²)

3 概算経費

(1) 整備事業費

約945,000千円(設計費・工事費)

※羽根木公園との一体的な整備、擁壁工事費は含まない。

(2) 維持運営費

①維持管理経費(委託料・光熱水費等)

約12,500千円/年(公共施設白書より(同施設の過去3ヵ年決算平均値))

②運営経費

一部業務委託、全部業務委託、指定管理といった様々な運営形態を検討し、運営経費を積算する。

(3) 仮図書館事務所維持運営費

業務委託の場合、年間2千万円程度の運営経費が必要となる。

4 今後の予定

平成29年 9月	文教常任委員会
平成30年度	基本設計
平成31年度	実施設計
平成32～33年度	解体・工事
平成33年度	竣工

5 その他

土砂災害特別警戒区域

図書館敷地北西側の崖の一部が東京都により土砂災害特別警戒区域に指定される予定であり、急傾斜地の崩壊防止の対策について東京都をはじめ、庁内の関係部署と調整を図りながら、改築にあわせて擁壁等の整備を行う予定である。